

奄美大島から得られた国内 2 例目のウグイスゴマダラハタ

中村潤平¹・前川隆則²・本村浩之³¹ 〒 890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学大学院水産学研究所² 〒 894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 6-16 株式会社前川水産³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ウグイスゴマダラハタ *Epinephelus magniscuttis* Postel, Fourmanoir and Guézé, 1963 はインド・西太平洋の島嶼域とトンガから散発的に記録されており、日本国内においては種子島からのみ知られている知見に乏しいハタ科ハタ族魚類 (Serranidae: Epinephelini) である (Nakamura et al., 2018).

2019 年 12 月 16 日に奄美大島沖の水深 270 m 地点において 1 個体のウグイスゴマダラハタが漁獲された。本標本は日本国内における本種の 2 例目の記録となるためここに報告し、形態と色彩を詳細に記載する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Randall and Heemstra (1991) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記し、体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm の精度で行った。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された奄美大島産の標本 (KAUM-I. 138291) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写

真は同館のデータベースに登録されている。

■ 結果と考察

Epinephelus magniscuttis Postel, Fourmanoir and Guézé, 1963

ウグイスゴマダラハタ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 138291, 体長 450.6 mm, 鹿児島県奄美市名瀬小湊沖 奄美大島, 水深 270 m, 2019 年 12 月 16 日, 釣り, 吉村 新漁獲, 名瀬漁港にて前川隆則購入。

記載 背鰭条数 XI, 15; 臀鰭条数 III, 8; 胸鰭軟条数 18; 腹鰭条数 I, 5; 側線鱗数 55; 縦列鱗数 117; 鰓耙 8 + 17 = 25.

体各部の体長に対する割合 (%) : 頭長 42.0; 吻長 11.0; 体高 32.9; 体幅 16.1; 眼窩径 7.2; 両眼間隔長 6.5; 眼下骨高 3.4; 上顎長 20.1; 尾柄高 10.7; 尾柄長 20.2; 背鰭前長 38.4; 臀鰭前長 69.4; 腹鰭前長 40.0; 背鰭基底長 54.1; 背鰭第 1 棘長 5.9; 背鰭第 2 棘長 11.5; 背鰭第 3 棘長 13.7; 背鰭第 4 棘長 14.1; 背鰭第 5 棘長 13.8; 背鰭第 6 棘長 13.2; 背鰭第 7 棘長 12.7; 背鰭第 8 棘長 12.1; 背鰭第 9 棘長 11.0; 背鰭第 10 棘長 10.4; 背鰭第 11 棘長 9.5; 最長背鰭軟条長 (第 9 軟条) 15.2; 臀鰭基底長 15.6; 第 1 臀鰭棘長 5.0; 第 2 臀鰭棘長 9.0; 第 3 臀鰭棘長 9.9; 最長臀鰭軟条長 (第 3 軟条) 16.3; 胸鰭長 25.5; 腹鰭棘長 10.5; 腹鰭長 18.8.

体は前後方向に長い楕円形でやや側扁する。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて上昇し、そこから尾鰭基底部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて下降し、そこか

Nakamura, J., T. Maekawa and H. Motomura. 2020. Second Japanese record of *Epinephelus magniscuttis* (Perciformes: Serranidae) from Amami-oshima Island, Amami Islands, Kagoshima, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 495-498.

✉ HM: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp).

Published online: 30 March 2020

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-087.pdf



Fig. 1. Fresh specimen of *Epinephelus magniscuttis* from off Amami-oshima Island, Amami Island, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 138291, 450.6 mm SL). A: lateral view; B: dorsal view.

ら尾鰭基底にかけて上昇する。眼は正円形を呈する。鼻孔は2対で近接し、眼の直前に位置する。前鼻孔は背腹方向に長い楕円形で、後縁に皮弁を有する。後鼻孔は背腹方向に長い楕円形で、皮弁を欠く。後鼻孔は前鼻孔より明瞭に大きい。口は端位で口裂は大きい。上顎後端は眼の後縁直下付近に位置する。下顎先端は吻端より前方に位置する。両唇は厚い。上肢鰓耙は短く、下肢鰓耙は細長い。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、下縁は円滑。前鰓蓋骨角部は鋸歯状であるが、発達した棘を欠く。鰓蓋後縁は一部鋸歯状であるが、大部分は円滑。鰓蓋上部に3棘を有する。体側は櫛鱗に覆われるが、体側上部から体背部にかけてと体側腹部は円鱗に覆われる。両顎、眼と両鼻孔の周辺、鰓膜、および胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、体背縁の下方を体背縁の輪郭に沿って鰓蓋後部上方から尾鰭基底にかけて入る。背鰭起部は鰓蓋後端より前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より遙かに後方にそれぞれ位置する。背鰭各棘間の鰭膜は切れ

込む。背鰭軟条部外縁は丸みを帯びる。背鰭棘は第1棘から第4棘にかけて徐々に長くなり、第4棘から第11棘にかけて徐々に短くなる。最長背鰭軟条(第9軟条)は最長背鰭棘(第4棘)より長い。胸鰭基底上端は背鰭起部直下付近、胸鰭基底下端は腹鰭起部より僅かに後方にそれぞれ位置する。胸鰭後縁は丸く、後端は背鰭第9棘起部直下を越える。腹鰭起部は背鰭起部直下付近に位置する。腹鰭第5軟条は体と鰭膜で繋がる。ただ腹鰭後端は肛門に達しない。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部直下付近、臀鰭基底後端は背鰭第10軟条起部直下付近にそれぞれ位置する。臀鰭第2棘は第3棘より短い。尾鰭は円形を呈する。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) : 頭部と体側は鶯色で、腹部は淡色。各鰭は鶯色。頭部と体側の上半部、背鰭の基底部、および尾鰭の上半部に瞳孔より小さい黒点が散在する。これらの黒点の大きさは不揃い。眼の後縁から鰓蓋後部にかけて並ぶ黒点は列をなす。背鰭軟条部外縁の前半部、臀



Fig. 2. Fresh specimen of *Epinephelus epistictus* from the west coast of Kagoshima mainland, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 129887, 353.6 mm SL).

鰭軟条部の下縁、および尾鰭の両端部は白みを帯びる。上顎の上部に茶褐色線がある。瞳孔は黒色で、眼の周りは黄色みを帯びる。

分布 南アフリカ、モザンビーク、レユニオン、モーリシャス、日本、フィリピン、パプアニューギニア、オーストラリア北部、ニューカレドニア、フィジー、およびトンガから記録されている (Fennessy and Russell, 2011; Nakamura et al., 2018; Johnson and Worthington Wilmer, 2019)。日本国内では、種子島からのみ記録されていたが (Nakamura et al., 2018)、本研究により新たに奄美大島における生息が確認された。

備考 本標本は背鰭鰭条数が XI, 15, 胸鰭軟条数が 18, 側線鱗数が 55, 縦列鱗数が 117, 総鰓耙数が 25, 体長に対する体高が 32.9%, 前鰓蓋骨角部の棘が発達しない, 尾鰭が円形, 体色が鶯色, 瞳孔より小さい黒色点が頭部と体側の上半部, 背鰭基底半部, および尾鰭上半部に散在する, および眼の後縁から鰓蓋後部にかけて並ぶ黒点が列をなすことなどの特徴により Randall and Heemstra (1991), Fennessy and Russell (2011), Nakamura et al. (2018), および Johnson and Worthington Wilmer (2019) の報告した *Epinephelus magniscuttis* の標徴とおおむね一致したため本種と同定された。

しかし、本標本は日本初記録として報告された種子島産のウグイスゴマダラハタ標本 (KAUM-I. 73560, 体長 613.0 mm : Nakamura et

al., 2018; fig. 1) と比較し、頭部と体側の斑点の数が少なく、背鰭、臀鰭、および尾鰭の縁辺に白色部をもつ。ウグイスゴマダラハタは国外でも分布記録が少なく知見に乏しい種であるため、本種の成長に伴う色彩の変化や、個体や地域間における形態・色彩の変異は明らかにされていない。そのため、今後の追加標本の収集に伴う本種の知見の蓄積が望まれる。なお、著者によるハタ族魚類の分類学的研究の過程で、西太平洋各地で得られている *E. magniscuttis* とインド洋産の本種は前鰓蓋骨角部の棘 (西太平洋産は発達しないが、インド洋産では発達する) や体側の斑点の配置 (前者は不規則に散在するが、後者では背部から前下方に向かって斜列する傾向がみられる) など形態や色彩の変異が確認された。したがって、今後は多数の標本を用いた各海域における *E. magniscuttis* 個体群の分類学的研究が必要である。

ウグイスゴマダラハタはコモンハタ *Epinephelus epistictus* (Temminck and Schlegel, 1843) (Fig. 2) と体各部の計数・計測値や体色、頭部と体側に小黒点が散在する点でよく似ており、前者は後者と比較して斑点が大きく数が多いこと、前鰓蓋骨角部の棘が発達しないこと、および背鰭、臀鰭、および尾鰭縁辺に白色部を有しないことで識別されると考えられていた (Randall and Heemstra, 1991; Fennessy and Russell, 2011; Nakamura et al., 2018)。しかし、奄美大島産の記載標本はコモン

ハタと比較して斑点が大きく数が多く前鰓蓋骨角部に発達した棘を欠くが、背鰭、臀鰭、および尾鰭の縁辺に白色部があるため、両種の識別形質については再検討が必要であると考えられる。また、*E. epistictus* には複数種が内包されていることが指摘されているため (Johnson and Worthington Wilmer, 2019)、今後の分類学的研究の進展が望まれる。

これまでに知られていた日本国内におけるウグイスゴマダラハタの分布記録は種子島のみであるため、記載標本は本種の国内からの2例目の記録となる。

比較標本 コモンハタ *E. epistictus* (Fig. 2) : KAUM-I. 129887, 体長 353.6 mm, 鹿児島県薩摩川内市沖 (鹿児島市中央卸売市場魚類市場で購入), 刺網, 2019年5月7日, 和田英敏・藤原恭司. ウグイスゴマダラハタ *E. magniscuttis* : KAUM-I. 73560, 体長 613.0 mm, 鹿児島県西之表市現和田ノ脇沖 種子島 (西之表市の魚類市場で購入), 水深 50 m, 延縄, 2015年5月30日, 高山真由美.

■ 謝辞

本稿執筆に際し、吉村 新氏をはじめとする名瀬漁協関係者の方々、国立科学博物館分子生物多様性研究資料センターの畑 晴陵博士、および鹿児島大学総合研究博物館ボランティアのみなさまと同博物館魚類分類学研究室のみなさまには多大なるご協力を賜ったため感謝申し上げます。本研

究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- Fennessy, S. T. and Russell, B. C. 2011. *Epinephelus magniscuttis* Postel, Fourmanoir & Guézé 1963. Pp. 180–182. In: Craig, M. T., Sadovy de Mitcheson, Y. J., and Heemstra, P. C. (eds.) Groupers of the World. A Field and Market Guide. NISC, Grahamstown.
- Johnson, J. W. and Worthington Wilmer, J. 2019. *Epinephelus fuscomarginatus* (Perciformes: Epinephelidae), a new species of grouper from off the Great Barrier Reef, Australia. *Zootaxa*, 4674: 329–348.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Nakamura, J., Takayama, M., Worthington Wilmer, J., Johnson, J. W. and Motomura, H. 2018. First Japanese record of the Speckled Grouper *Epinephelus magniscuttis* (Perciformes: Serranidae) from the Osumi Islands. *Species Diversity*, 23: 225–228.
- Randall, J. E. and Heemstra, P. C. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 20: 1–322.